

# 「第10回 医学部学生と女性医師の語る夕べ」報告

旭川市医師会女性医師部会 副部会長

坂田 葉子

(医療法人社団丘のうえこどもクリニック)

旭川市医師会女性医師部会の恒例行事の一つである「医学部学生と女性医師の語る夕べ」が、今年も旭川医科大学二輪草センターの協力のもと、11月20日（水）18時から旭川医科大学機器センター3階カンファレンスルームにて行われました。「私たち女性医師の体験談が、女子医学生のロールモデルとなれば」と始めた試みでしたが、今回で早くも10回目。記念すべき「第10回医学部学生と女性医師の語る夕べ」は、昨年同様『身近な先輩に学ぼう！ワークライフバランス』と題し、若手～中堅の3世代の先生方に講師をお願いしました。出産・育児を経験しながらの専門医の取得、外国での生活、研究医から臨床医への転換など、全く異なった歩みをされている3人の先生の体験談は、どれも興味深く、時間を忘れてしまうほどでした。15名の学生さん（うち男性3名）が参加。また今回も、旭川医大や旭川厚生病院の研修医、子育て中の若い女性医師たちの参加も多く、保育室もとても賑やかで、総勢50名ほどの会となりました。

## 第10回 医学部学生と女性医師の語る夕べ開催次第

司会 旭川市医師会女性医師部会 副部会長 坂田 葉子

開会 旭川市医師会女性医師部会 部会長 長谷部千登美

挨拶 北海道医師会 会長 長瀬 清  
旭川市医師会 会長 山下 裕久

テーマ 「身近な先輩に学ぼう！ ワークライフバランス」  
—専門医を取得したいけれど、子供もほしい。研究は？ 育児は？  
先輩たちの体験談から、仕事と家庭の両立のさせ方を学んでみましょう—

### 第1部 <講演>

講師 1. 旭川医科大学 内科学講座 循環・呼吸・神経病態内科学分野 河端奈穂子先生  
2. 旭川医科大学 小児科 山本 志保先生  
3. 旭川厚生病院 整形外科 相木比古乃先生

<講師の先生への質問コーナー>

### 第2部 <グループディスカッション>

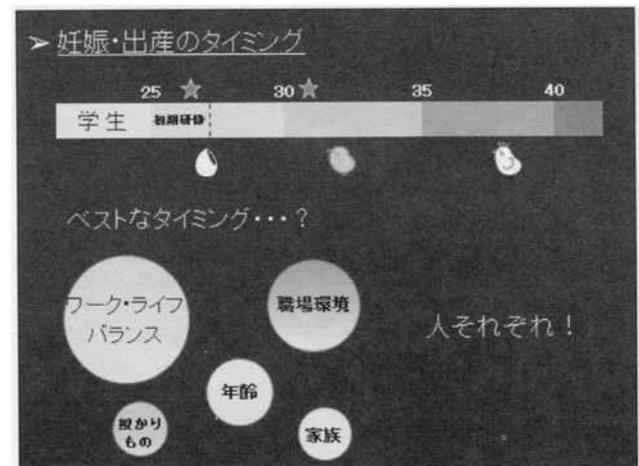
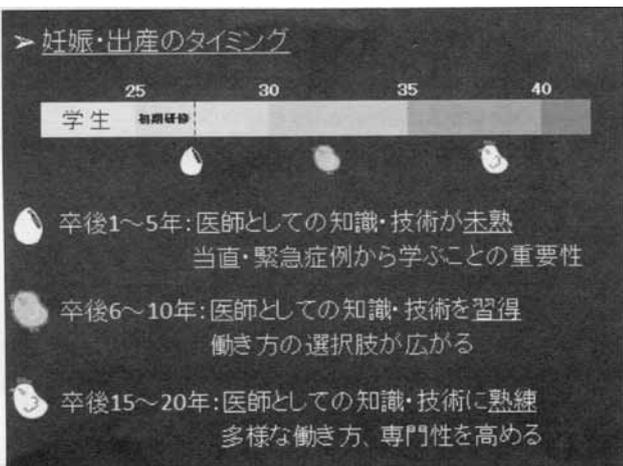
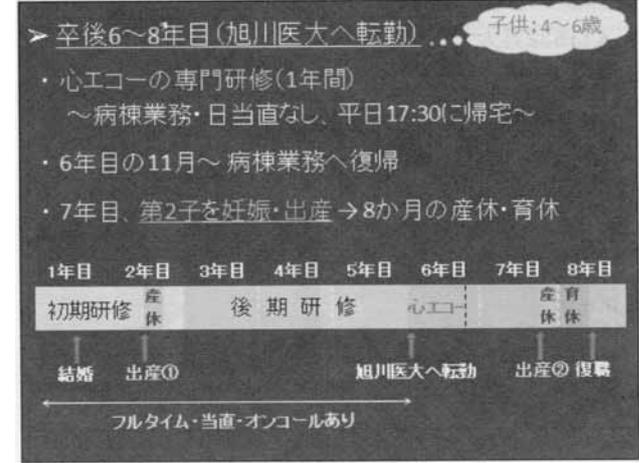
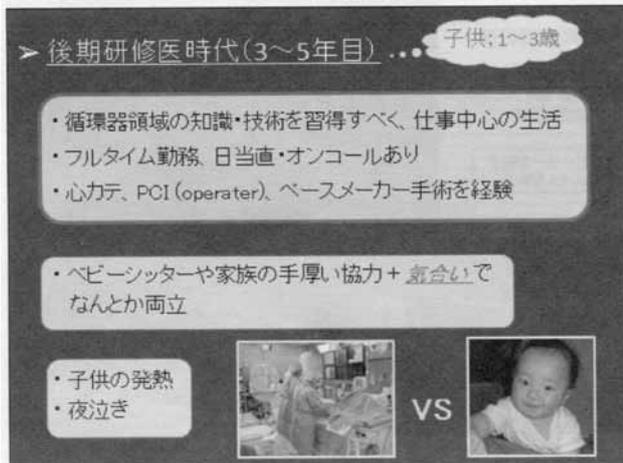
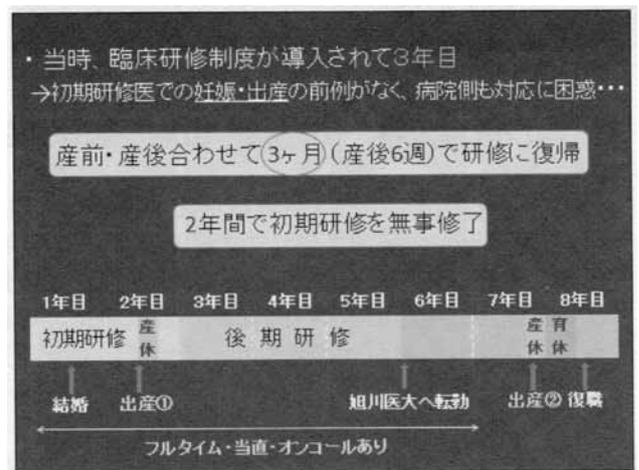
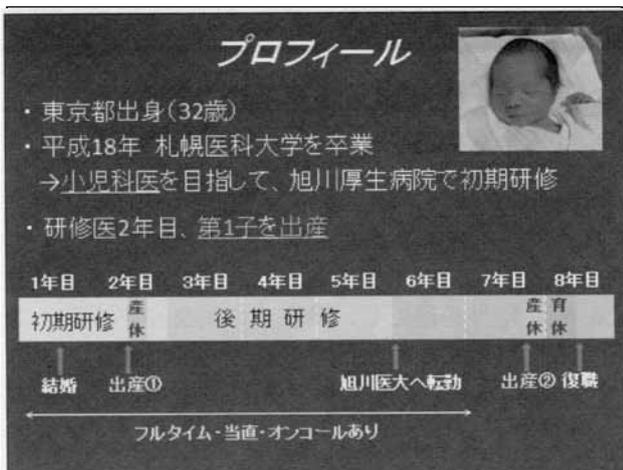
閉会 旭川医科大学二輪草センター センター長 山本 明美

## 第1部 <講演 演>

今回の講師は、3人とも旭川医大以外のご出身の先生方です。医師としても、家庭人としても異なる次元に立つ3人の講師のお話は、「参考になった」と学生さん・若い研修医の方たちに好評でした。皆さんの声が直接伝わるように、発表されたスライドを一部掲載させていただいています。

# 1) 旭川医科大学 内科学講座 循環・呼吸・神経病態内科学分野 河端奈穂子先生

河端奈穂子先生は、東京都ご出身。札幌医科大学を卒業後、旭川厚生病院で初期研修を始められました。1年目で結婚、2年目に第1子を出産。3か月の産休のみで復帰され、2年間で初期研修を修了されました。その後は、フルタイム勤務、日当直、オンコールもこなし、6年目からは旭川医科大学へ。約半年の心エコー専門研修後、病棟勤務に戻られ、7年目に第2子を出産。8ヶ月の産休後、11月から復帰されました。最短コースの4年目で内科認定医、7年目で循環器専門医を取得されております。ご自身は「ベビーシッターや家族の手厚い協力+気合」で乗り切ったとおっしゃっていましたが、華奢な体からは想像もつかないくらいの頑張り屋さん。先生からは、「医師・また女性としてある程度のライフプランを立てておくことは重要。たとえプラン通りにいかななくても、様々なサポートを受けながら仕事と家庭の両立は可能」というメッセージをいただきました。



➤ 医師・また女性として、ある程度のライフプランを描いておくことは重要

**育児のサポート**

両親  
配偶者  
ベビーシッター  
保育サポーター  
etc

**職場のサポート**

チーム医療  
多様な勤務形態  
病児保育  
時間外保育  
指導医の熱意  
(モチベーションの維持)

➤ ライフプラン通りにいなくても、様々なサポートのおかげで両立可能！

➤ 専門医の取得

<内科認定医> レポート+筆記試験

- ・初期臨床研修2年間(その内、内科臨床研修6か月間以上)+教育(関連)病院での内科後期臨床研修1年以上
- 医師4年目で取得可能

<循環器専門医> レポート+筆記試験

- ・6年以上の会員歴
- ・内科認定医資格取得後、満3年以上指定の研修施設で研修
- 医師7年目で取得可能

## 2) 旭川医科大学 小児科 山本 志保先生

山本志保先生は、山形大学医学部を卒業され、旭川医科大学の小児科に入局。深川、土別での勤務を経て、5年目に旭川厚生病院勤務中に第1子を出産。この年に小児科専門医も取得されております。厚生病院にて時短勤務で復帰後もなくご主人のフィンランドへの留学が決まり、ともにフィンランドへ。女性の就労率が高く、お母さんに優しい国第1位である北欧の地で専業主婦として2年半を過ごし、滞在中に第2子を出産。この地での貴重な体験が、家族の絆、子育てに対する夫婦の在り方、目指す小児科医の姿を考えるうえで、大いに役立ったそうです(お話を聞けば聞くほど、うらやましくなるような体験です)。そんな先生も、帰国後の復帰時には悩まれたとのこと。

でも今では、立派な旭川医大小児科神経グループの一員です。

**フィンランド(SUOMI)** 男女同権思想

人口532万人  
国民1人あたりGDP 16位 (日本12位)  
自然豊かで住みやすい国や都市のランキング第1位 (日本12位)  
世界の教育水準ランキング第1位 (日本4位)  
世界平和指数第9位 (日本5位)  
お母さんにやさしい国ランキング第1位 (日本31位)

共働き率 約70%  
25-54歳の女性就労率 86%

国会議員の1/3が女性




前大統領 Tarja Halonen 前首相 Mari Kiviniemi

公共交通機関

- ・バス
- ・地下鉄
- ・路面電車
- ・近距離列車

↓

ベビーカーを押す大人1人も無料!



【フィンランドでの専業主婦生活で感じたこと、得たもの】

- ・専業主婦の大変さ、孤独さ
- ・ママ友の存在
- ・家族の絆
- ・子育ては夫婦で行う共同作業であるという意識

↓

- ・患者さんのお母さん達に優しくなった
- ・子育ての具体的なアドバイスができるようになった
- ・小児科医としての目指す姿の再確認  
「悩みながら子育て中のお母さんたちに寄り添える存在になりたい」
- ・子育ては、夫婦で協力・分担

【学生さんに伝えたいこと】

- ・人生、何がおこるか分かりません
- ・若くて、体力・時間が十分ある間に、経験を積むこと
- ・専門医はさっさととりましょう
- ・サブスペシャリティがあるとさらに良い(と思う...)

ブランクからの復帰は、精神的なハードルが高い

↓

『戻ってくるのを待っているから、絶対に帰ってきてね』  
大先輩の一言が心の支えでした。

### 3) 旭川厚生病院 整形外科 相木比古乃先生

相木比古乃先生は、札幌医科大学を卒業と同時に結婚、整形外科医局に入局されました。7年目には専門医を取得されております。ご主人と時に別居しながら、10年間臨床医として働き、その後研究の道へ。7年目には専門医を取得されております。11年目に第1子を出産された後、3年間は研究と整形外科医としての非常勤の仕事をされ、14年目には常勤に復帰。16年目に第2子を出産。17年目である今年、ご主人の実家のある旭川に移られ、旭川厚生病院整形外科で常勤医として働き、当直・二次救急の待機をこなしておられます。先生が常勤医として仕事に熱中できるよう、ご主人は、旭川市夜間急病センターの常勤医をされています。医師としての妻を尊重されるご主人、そして感謝の気持ちを忘れずに頑張っている先生、とても素敵なお夫婦です。

ここからは体験談です

25歳 札幌医大卒業と同時に結婚、入局  
約10年間 臨床 (夫とは時に別居)  
卒後7年で専門医取得

32, 33歳～ 子供が欲しいと漠然と思う  
しかし臨床のままでは妊娠は無理

35歳 研究  
妊娠、第1子出産

36歳 (生後6か月) 3～4回/週 研究、非常勤

37歳 (1歳) 4～5回/週 研究、非常勤

38歳 (2歳8か月) 札幌清田整形外科常勤  
(当直は免除)

40歳 第2子出産  
(生後3か月) 札幌清田整形外科非常勤

41歳 (生後8か月) 旭川厚生病院常勤  
1回/月当直、  
2～3回/月 2次救急待機

現在 上:6歳、  
下:1歳3か月  
ちなみに今授乳中



どうして常勤ができるのか？

- ・夫の両親と敷地内同居
- ・夫は夜の仕事のみ

「夫、(夫の)両親の  
理解と協力」  
これにつきます



私は朝食と娘のお弁当を  
作るだけ。

出産後、色々な仕事のスタイルがある

- ・常勤、当直、救急もやる
- ・開業
- ・非常勤、外来のみ
- ・検診、検査のみ など

選択肢が多いので逆に仕事を続けられやすいかも？

いつ頃に出産するのがいいのか？

仕事:あるていどキャリアを積んでから

妊娠、出産:若ければ若い方がいい

答えはないと思います

個人的には、

前もってあれこれ決めなくていい  
→こればかりは自分の思いどおりにはいかない  
(でもひそかに欲張りな人生を目指すのもいいのでは)



何はともあれ体力が一番

## 第2部<グループディスカッション>

今回は、3つのグループに分かれてのディスカッションとなりました。1～3年生のグループでは、どんな医者になりたいか、専門とする科の選び方などについての話が多かったようですが、4～5年生では、卒業後の生活に結びつく具体的な質問が多かったようです。今年も時間を忘れ、ワイワイガヤガヤ、笑い声が絶えない楽しい時間を過ごすことができました。

週20時間常勤制度も導入され、残念ながら、自分の権利ばかり主張する女性医師も散見されるようになってきました。今回の講師の先生方の、周囲の方たちへの感謝の気持ちを忘れず、甘えることなく仕事に家庭に向き合う姿は、学生さんたちの励みになると思います。貴重なお話、ありがとうございました。

### <アンケートから>

- ・ディスカッションが楽しめました。
- ・とてもよい話を聞いて良かったです。また機会があれば参加したいと思いました。また出席したいです。
- ・懇談会の人数のバランス etc を考慮していただけると嬉しいです。年に複数回だともっと様々なお話が聞けるのでは…と思いました。
- ・とても貴重なお話を聞いて、ためになる会でした。多くの学生が参加するよう、来年はたくさん誘って来ます!!
- ・各医局の取り組み「まとめ」とか、医局員の結婚・出産に関するアンケートとかの情報があれば、科を選ぶ際の参考になると思いました。
- ・今回10回目だったんですね。おめでとうございます!
- ・同じグループ以外の人のお話も聞いてみたかったです。とてもためになりました。

